

5. 統合分野

統合分野の構築の考え方

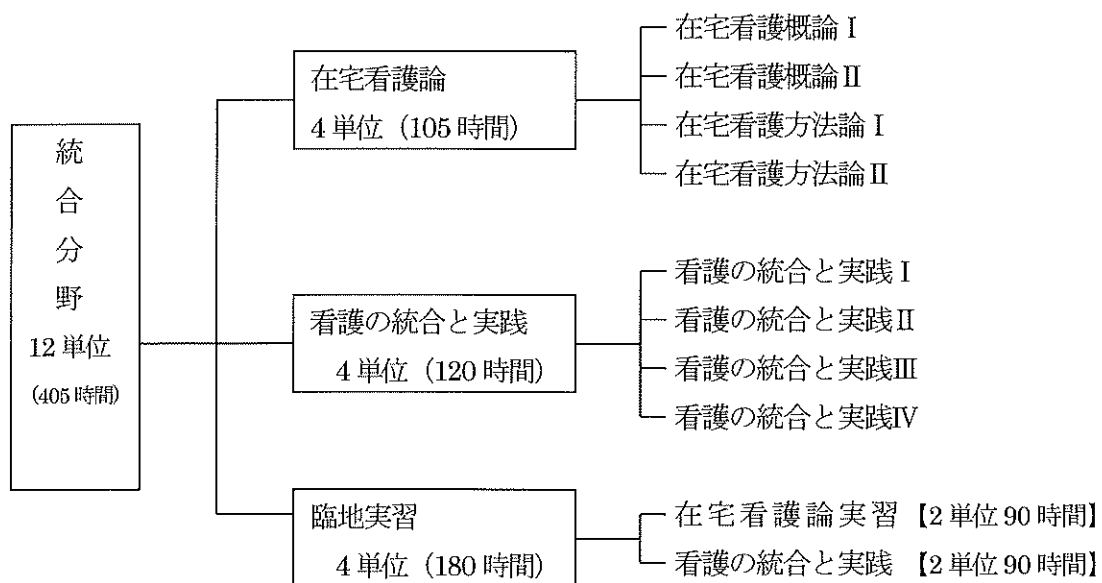
統合分野においては基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱで学習した内容を統合し、看護実践能力を高める教育内容にし、「在宅看護論」「看護の統合と実践」「臨地実習」を位置づけた。

「在宅看護論」では地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅での看護実践の基礎を学ぶ内容とした。そこでは終末期看護も含め、在宅での基礎的技術を身につけ他職種と協働する中での看護の役割を理解する内容とし、在宅看護概論 2 単位、在宅看護方法論 2 単位で構成した。

「看護の統合と実践」では、保健・医療・福祉の連携の中で看護の役割が拡大する中、チーム医療における他職種との協働する上でマネジメントする能力を身に付けるとともに、国際的な看護活動や、災害時あるいは救急医療現場において看護の知識や技術が求められることを踏まえ、それらに必要な知識・技術の修得することを目指した。さらに臨地での質の高い看護を提供する上で必要なエビデンスをふまえた看護実践を構築する能力の育成や、生涯学習の観点から看護研究について学ぶ機会とし、看護実践能力を高めるために臨地での看護実践に近い形で知識・技術を統合し、実践するために学内演習の充実を図ることとして 4 単位で構成した。

臨地実習は、在宅看護論では訪問看護や福祉施設での実習を通して在宅看護の役割を学ぶ内容とし 2 単位を設定した。「看護の統合と実践」では、複数患者の受け持ち、夜勤（もしくは早朝）を加えた全勤務帯を経験し、実際の看護実践に近い形態の中での実習とした。そうした中で、これまでの実習ではほとんど経験していない複数患者の看護業務管理、2) タイムマネジメント方法の習得、他職種・他部門との連携などを内容とし、2 単位を設定した。

統合分野の構成



5.統合分野－2) 教授内容

(1) 在宅看護論

在宅看護論の構築の考え方

在宅看護は、あらゆる健康レベル、あらゆるライフステージにある人々とその家族を対象としている。少子化・超高齢社会の到来、医療の高度化・専門化、在院日数の短縮化などにより、在宅医療・看護に対する社会のニーズは高まり、看護師の活動の場も臨床から地域へと拡大している。

在宅看護論は、疾病や障害を持ちながら在宅で生活する人々、生活の自立が困難で支援を必要とする人々とその家族に対して、対象者の健康問題やそれに伴う生活障害を個々の価値観や生活様式を含めてアセスメントし、QOL 向上を目指して看護を展開するための基礎的知識を学ぶものとした。

在宅看護概論Ⅰでは、在宅看護の理念と目的、変遷及び現状、地域の保健・医療・福祉活動について学ぶ。在宅看護の実際については、看護師の主たる活動である訪問看護について理解する。

在宅看護概論Ⅱでは、対象者とその家族の特徴や家族の意義や介護上の役割について、在宅看護の視点をふまえて理解する。さらに家族を対象として援助するため家族形態や機能、家族の発達課題について学ぶ。また、生命の尊厳や人間尊重を基本に、対象者の人権の保障と在宅看護における倫理的問題について理解する。

在宅看護方法論Ⅰでは、在宅看護を展開するために必要な看護技術を学ぶ。在宅看護に必要な技術は、療養環境の整備から生活行動の直接的援助に伴う支援技術、医療処置に伴う支援技術、家族への介護指導とその範囲は広い。対象者の生活背景や条件に応じて様々な組み合わせがあり、その場で独自のアセスメントをして必要な技術を提供することが求められるため、基礎看護技術を応用した在宅看護特有の看護技術について理解する。

在宅看護方法論Ⅱでは、対象者の背景や疾患・障害の経過に応じた看護の実際を学ぶ。特に近年、終末期医療の考え方の変化に伴い、在宅で終末期を迎える対象がふえ、全人的な苦痛に対する緩和ケアや対象の QOL の向上に対するかかわりが求められていることを踏まえて、終末期の対象に対する援助について学ぶ。また、看護過程の展開では事例を通して療養環境ならびに家族背景を考慮し、疾患の経過や主要症状を捉えた上で、人間らしく療養できるような援助方法について演習を通して理解する。

在宅医療に対するニーズが増大している今日、在宅看護活動の重要な役割を担う看護職の役割と責任は拡大し、これまで以上に的確な判断力と技術力に加え、対人関係能力、倫理的判断能力、また他職種との調整力が求められている。在宅看護論では地域で療養する人々に対応できる臨床看護能力や社会福祉に関する知識や保健・医療・福祉の調整について学ぶものとする。

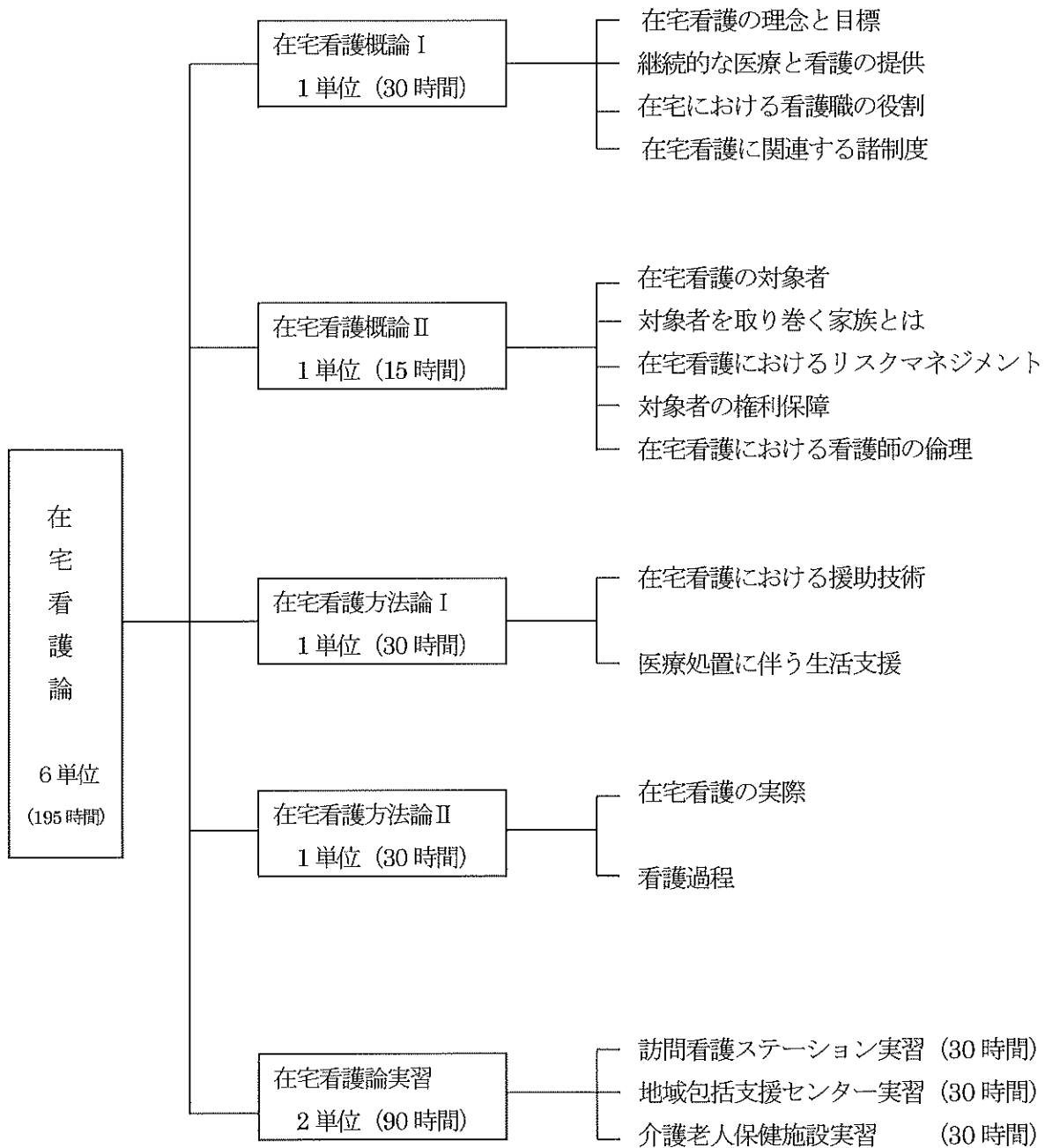
在宅看護論の目的

在宅で療養・生活する人とその家族を対象とし、対象がセルフケア能力を高めるための支援、およびニーズに基づく生活行動の支援方法を学ぶとともに、対象が望ましい生活ができるための社会資源の活用とそのため調整の必要性を理解し、地域における保健・医療・福祉における看護の役割が理解できる。

在宅看護論の目的・目標

1. 在宅看護の変遷と現状を踏まえ看護の役割を理解し、在宅看護の対象を理解できる。
2. 対象のニーズに基づく支援方法および社会資源の活用方法を理解し、必要な在宅看護の展開方法が理解できる。
3. 基本的な看護技術を応用し、在宅における看護技術を身につける。
4. 在宅看護における保健・医療・福祉の調整について理解できる。

在宅看護論の構成と科目のねらい



授業科目	在宅看護概論Ⅰ	講師名	降籬 幹子 上杉 敬一	単位 1 単位 時間 30 時間	時期 2 年次前期
科目目標 1. 在宅看護を取り巻く社会背景を基に、在宅看護の理念と目的が理解できる。 2. 地域看護の実際を踏まえて、在宅看護の位置づけ・特徴が理解できる。 3. 在宅看護での療養者、家族の支援のあり方を理解し、在宅看護を実践する看護職の役割が理解できる。 4. 在宅で療養する人々を支える社会資源の種類や関連する保健・医療・福祉制度及び訪問看護制度について理解できる。					
単元	回数	授 業 内 容		方法	担当
在宅看護の理念と目的	1	1. 在宅看護を学ぶにあたって 1) 在宅看護の目的・特徴 2) 在宅看護が求められる背景・歴史		講義、グループワーク・報告	降籬
	2	2. ケアニーズに応じた在宅看護の提供 1) 地域で支える医療提供 2) 多職種連携と地域ケアシステムの構築			
	3	3. 在宅療養における看護職の役割 グループワーク①			
	4	4. グループ報告会			
在宅療養の支援	5	1. 在宅看護と院内看護の比較		講義	
	6	2. 在宅看護の提供方法 3. 療養の場の移行(入退院指導) 4. 在宅看護の基本となるもの			
在宅に看護に関する法令・制度	7	1. 在宅医療を支える社会資源と活用方法		講義	上杉
	8	2. 仕組みとサービス利用の手続き			
	9	3. ケアマネジメント			
	10	4. 介護サービスの種類と内容			
	10	5. 関係職種との連携			
	11	1. 訪問看護にかかわる法令・制度		講義、グループワーク・報告	降籬
	12	2. 訪問看護制度			
	13	3. 訪問看護サービスの提供			
	14	1) 訪問看護ステーションの運営と管理 2) 訪問看護ステーションの成り立ち・利用者の特性 3) 訪問看護サービスの利用手順と内容・社会資源活用			
	14	4. 訪問看護ステーションを調べよう グループワーク② 5. グループ報告会			
評価	15	降籬：70 点（筆記試験 50 点 グループワーク 20 点） 上杉：30 点（筆記試験 30 点）		筆記試験 (90 分)	
テキスト	河原加代子編著「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」医学書院, 2020 年第 5 版				
参考書	押川真喜子監修「訪問看護アドバンス」インターメディカ, 2019 年 臺有桂編著「在宅看護論①地域療養を支えるケア」メディカ出版, 2019 年 原礼子編著「プリンシプル在宅看護論」医歯薬出版株式会社, 2017 年				

授業科目	在宅看護概論Ⅱ	講師名	降旗 幹子 上杉 敬一	単位 1 単位 時間 15 時間	時期 2 年次前期
科目目標 1. 在宅看護の対象者の特徴及び支援のあり方について理解できる。 2. 在宅看護の対象者の家族の特徴及び支援のあり方について理解できる。 3. 在宅看護におけるリスクマネジメントについて理解できる。 4. 在宅看護の対象者の権利保障・倫理について理解できる。					
単元	回数	授 業 内 容		方法	担当
在宅看護の対象者と生活	1	1. 在宅看護の対象者の特徴 2. 在宅看護の対象者の生活（住まいと健康）		講義、 個人レ ポート	降旗
対象者を取り巻く家族	2	1. 現代家族の特性と家族機能の変化 1) 現代社会における家族の多様性 2) 在宅看護の対象者としての家族 3) 家族システムの特徴とアセスメント 4) 家族看護における看護職の役割と援助 2. 個人レポート「家族を考える」			
在宅看護のリスクマネジメント	3	1. 在宅看護におけるリスクとは 2. 環境整備による安全の確保 3. 感染の予防 4. 災害に対する準備と対応			
対象者の権利保障	4 5	1. 人権の権利保障 1) 基本的人権と個人の尊厳、アドボカシー 2) 自己決定権、インフォームド・コンセント 3) 個人情報の保護 3) 成年後見制度 4) 高齢者の虐待の防止		講義	上杉
訪問看護における看護師の倫理	6 7	1. 在宅看護の倫理的問題 1) 看護師の倫理規定 2) 在宅看護の倫理性 3) 在宅看護の実践の場における倫理 2. 地域で活動する看護職の倫理的課題 グループワーク「在宅看護を実践するために」		講義、 グルー プワー ク・報 告	降旗
評価	8	田中：75 点（筆記試験 45 点 レポート 20 点 グループワーク 10 点） 上杉：25 点（筆記試験 25 点）		筆記試験 (45 分)	
テキスト	河原加代子編著「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」医学書院, 2020 年第 5 版 押川真喜子監修「訪問看護アドバンス」インターメディカ, 2019 年				
参考文献	臺有桂編著「在宅看護論①地域療養を支えるケア」メディカ出版, 2019 年 原礼子編著「プリンシプル在宅看護論」医歯薬出版株式会社, 2017 年				

授業科目	在宅看護方法論 I	講師名	田中 享子	単位	1 単位	時期
			廣澤 真由美	時間	30 時間	
科目目標 1. 在宅看護を展開するために必要な基本的な援助技術を理解できる。 2. 在宅療養の特性を踏まえ、対象の生活の質の向上を目指した援助方法を理解できる。						
単元	回数	内 容		方法	担当	
在宅における 援助技術	1	1. ガイダンス 訪問時のマナー・コミュニケーション		講義 演習	田中	
	2	2. 在宅で看護を提供するための技術の実際		グループ ワーク 演習		
	3	1) 在宅における援助技術				
	4	① 食事				
	5	② 入浴				
	6	③ 陰部洗浄				
7	④ 移動動作・機能訓練		発表会			
8	⑤ 内服管理の工夫、指導					
9	2) 援助技術のグループ発表と検討会					
	10	3. 膀胱留置カテーテル管理と交換 経管栄養、胃瘻を挿入している人への援助		講義		
	11	4. 在宅における援助技術のまとめ		ワーク		
医療処置に伴う 看護・生活支援	12	1. 在宅酸素療法 (HOT)		講義	廣澤	
	13	2. 在宅人工呼吸療法 (HMV)				
	14	3. 非侵襲的陽圧換気療法 (NPPV)				
	15	4. 疼痛管理				
		5. 在宅中心静脈栄養法 (HPN)				
		6. 褥瘡ケア				
		7. ストーマケア				
評価		田中：70 点 (1～11 におけるグループワークや 凝縮ポートフォリオ等から評価する) 廣澤：30 点 (筆記試験 30 点 30 分)		筆記試験		
テキスト	河原 加代子著：統合分野 在宅看護論 系統看護学講座 医学書院 押川 眞喜子監修：写真でわかる訪問看護 改訂第2版 インターメディカ いとう総研編：社会保障制度指さしガイド 2020					
参考文献	在宅看護論―地域療養を支えるケア デイ出版					

授業科目	在宅看護方法論Ⅱ	講師名	田中 享子	単位 1 単位	時期
			川上 智之	時間 30 時間	
科目目標 1. 在宅で療養する対象の疾患や障害にあわせた看護を理解できる。 2. 在宅で療養する対象にとって必要な福祉機器の実際を知る。 3. 在宅療養においてターミナル期を迎える対象の看護について理解する。 4. 在宅看護を必要とする対象の特性を考慮した看護過程の展開ができる。					
単 元	回数	内 容		方法	担当
在宅看護 の実際	1	1. 認知症のある対象への援助		講義	田中
	2	2. 癌疾患のある対象への援助			
	3	3. ターミナル期を迎えた対象への援助			
	4	4. 難病のある対象への援助		講義	川上
	5	5. 長期臥床状態にある対象への看護			
	6	6. 精神障がいのある対象への援助		講義	田中
	7	7. 小児の療養者に対する援助			
	8	8. 感染症のある対象への援助 在宅での感染管理		福祉機器展 見学・体験	田中
9	9. 残存機能を生かし ADL 維持・拡大を 促すための福祉用具の実際を知る				
看護過程	10	1. 看護過程演習の概要と方法		講義 個人ワーク	田中
	11	1) 事例提示と説明			
	12	2) 記録方法		講義 個人ワーク	田中
	13	2. 看護過程演習			
	14	1) 情報収集			
		2) アセスメント			
		3) 問題点抽出			
		4) 計画立案		筆記試験 (90 分)	
		5) 実施			
		3. まとめ			
評価	15	田中：85 点 (筆記試験 55 点 個人ワーク・レポート：30 点) 川上：15 点 (筆記試験 15 点)			
テキスト	河原 加代子著：統合分野 在宅看護論 系統看護学講座 医学書院 押川 眞喜子監修：写真でわかる訪問看護 改訂第2版 インターメディカ いとう総研編：社会保障制度指さしガイド 2020				
参考文献	在宅看護論―地域療養を支えるケア ぎょうせい出版				

5.統合分野－2) 教授内容

(2) 看護の統合と実践

看護の統合と実践 構築の考え方

わが国の看護をめぐる環境は、急速な少子高齢化の進展、医療技術の進化、地域医療推進に即したシステムづくりなど、大きく変化してきている。そうした中で、看護師にはより患者の視点に立った、質の高い看護の提供が求められている。一方で看護業務の複雑・多様化、医療安全に関する意識の向上等の中で、患者の安全が重視され、看護学生は看護技術の経験の機会が限定されてきている。また、看護現場では複数患者を同時に受け持ち、複数の作業を同時進行でおこなわなければならない状況にある。こうした中では、看護基礎教育においても、多重課題に向き合い、優先度を考慮し、時間を管理しながら、他者と協働して問題を解決していく看護実践能力が求められている。

それらの現状を踏まえ、「看護の統合と実践」ではチーム医療における他職種との協働の中で看護の役割を理解し、マネジメントできる基礎的能力を身に付けること、医療安全の基礎的知識を修得すること、国際社会において広い視野に基づき、看護師として諸外国との協力を考えることができること、災害支援や救急現場における看護の基礎的知識について理解することなどの内容を含むものとした。また、エビデンスを重視した看護実践を行うために、看護研究の知識と研究を実践する能力、既習の学習知識を、臨床実践に即した形で統合し看護提供できるようになるための学内演習の充実を図った。

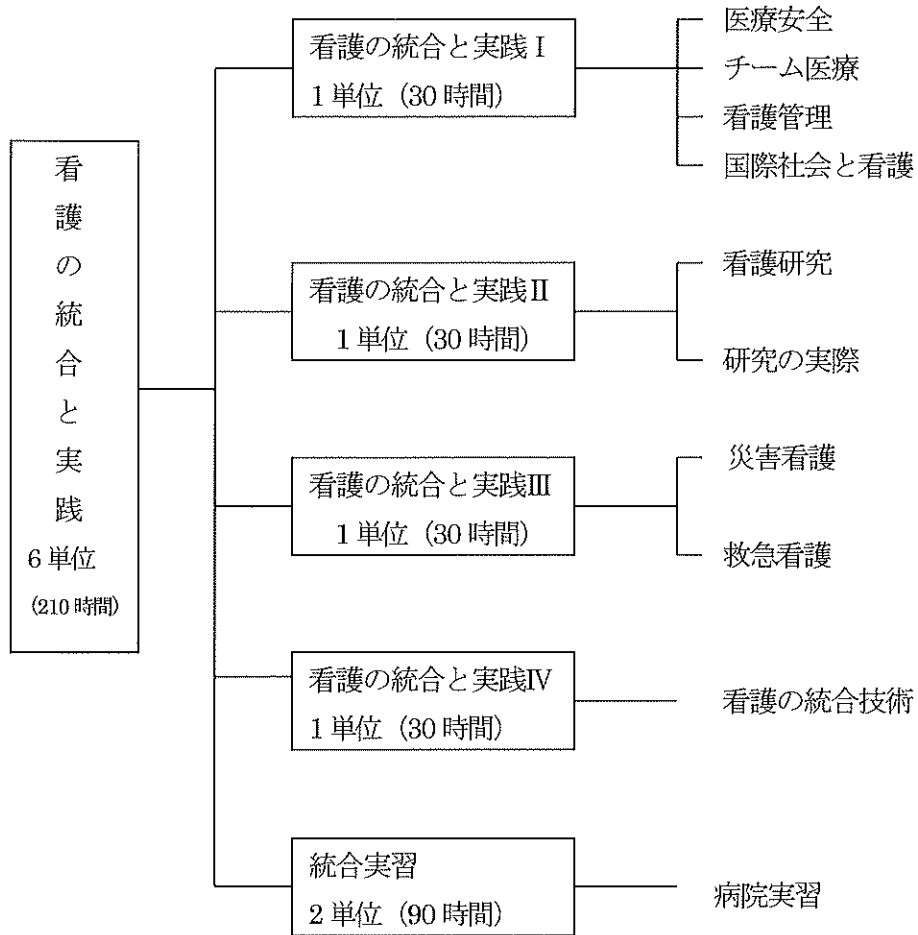
看護の統合と実践の目的

看護の提供は、看護師と患者という1対1の関係性だけではない。あらゆる看護活動の場で、患者を核としてその家族・多職種が取り巻くように存在している。そうした構造を理解し、患者の視点に立った安全で質の高い看護を提供するために必要な看護の基礎的知識を理解する。その上で、看護師あるいは看護を「病院」や「地域」、「国際」という大きな枠組みでとらえ、チーム医療における多職種との協働の中での看護師の役割・責務を理解する。さらに、看護の実践においては、臨床実践に近い形で提供するという視点に立ち、これまでの様々な既習の学習知識を駆使して統合する力を養う。

看護の統合と実践の目標

1. 医療安全についての知識を深め、「安全」の取り組みが理解できる
2. チーム医療の中での看護師が果たす役割と必要な能力が理解できる
3. 看護組織の中では、業務管理・物品管理・情報管理・人材育成があることを理解し、看護管理について考えることができる。
4. 国際看護について考えることができる
5. 看護研究の必要性和プロセスが理解できる
6. 救急看護・災害看護の場面での看護の役割と基礎的知識が理解できる
7. 実践に即した看護提供場面を想定し、既習の学習知識・技術を患者の置かれている状況に合わせて考えたうえで、行うべき看護を決定する中で、「統合する力」を養う。

看護の統合と実践の成図と科目のねらい



授業科目	看護の統合と実践Ⅰ	講師名	神山奈津江	単位	1単位	時期	
				時間	30時間		2年次前期
科目目標 1.医療の中にある危険、事故、ヒヤリハット等を理解し、再発防止策の重要性がわかる。 2.医療における他職種連携の重要性が理解できる 3. チームメンバーとのコミュニケーションと連携について理解できる 4. 看護におけるマネジメントについて理解できる 5. 国際看護活動の実際、異文化看護について考えることができる							
単元	回数	授業内容			方法	担当	
看護の統合と実践を学ぶにあたって	1	1.看護の實踐に必要な能力とは 2.病院組織・社会における看護師の役割			講義	神山	
医療安全 *テキスト 1)	2	1.患者の安全と医療従事者の安全 2.ヒューマンエラーとは 3.医療の質の保証がなぜ必要か			講義		
	3	4.医療事故の種類と安全対策 5.インシデント・アクシデント					
	4	6.事例学習（グループワーク） 1) 医療事故後の要因分析					グループワーク
	5	2) 医療事故後の対応・再発防止					
チーム医療 *テキスト 1)	6	1.保健医療福祉の機能分化と連携の必要性			講義		
	7	2. 看護提供体制とリーダーシップ					
		3. チームワークとコミュニケーション					
		4. 看護の人材育成の必要性					
看護管理 *テキスト 2)	8	1.看護管理とは			講義		
	9	2.看護師の仕事と管理 業務管理・物品管理・情報管理・人材育成					
	10	3.看護と経営 4. 病棟管理の実際（グループワーク）					グループワーク
国際社会と看護 *テキスト 3) 4)	11	1.グローバル化による環境・健康の問題と格差			講義		
	12	2.国と国との繋がり・人道支援					
	13	3.国際看護とは					
	14	4.国際協力・国際救援 5.事例学習（グループワーク）				グループワーク	
評価	15	筆記試験 75% 75点 グループワーク 25% 25点 (医療安全 10点、看護管理 10点、国際看護 5点)					
テキスト等 1) 新体系 看護学全書 看護実践マネジメント 医療安全 メヂカルフレンド社新体系 2) 看護学全書別巻 看護管理 看護研究 看護制度 メヂカルフレンド社 3) 系統看護学講座 統合 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ 医学書院 4) 国民衛生の動向 厚生労働統計協会							

授業科目	看護の統合と実践Ⅱ	講師名	境 敏一	単位	1 単位	時期
				時間	30 時間	
科目目標 1 看護研究の意義、必要性が理解できる 2 看護研究のプロセスが理解できる 3 文献の活用方法が理解できる 4 ケーススタディの方法について理解できる 5 看護研究の方法を活用し、受け持ち患者の症例をケーススタディとしてまとめることができる						
単元	回数	授業内容		方法		担当者
看護研究とは	1	ガイダンス		講義		境 敏一
	2	看護における実践と研究 1) 看護における研究の意味 2) 看護実践から得る研究の手がかり 研究の進め方 1) 研究テーマの検討		演習・レポート 臨地実習の経験から ケーススタディの題材を考える		
	3	2) 研究デザインの種類とプロセス		講義		
	4	(1) 研究の種類 (2) 研究過程の概観 (3) 研究論文の種類と構成				
	5	3) 文献検索の方法と入手方法		講義		
	6	(1) 文献の意義 (2) 上手な文献の検索法 (3) 文献の読み方・整理の仕方 看護における研究と倫理		演習・レポート 自分の研究テーマに 即した先行研究を検索し、内容をレビューする。		
	7	研究計画書の意義と具体的内容		講義		
研究の実際	8	看護研究の実際		担当教員の個別指導		専任教員
	9	1) 研究テーマの明確化		1. 実習を考慮し研究 テーマを絞り込む。		
	10	中間レポート提出 2) 研究計画書作成		2. 研究計画書作成		
	11	3) 研究計画書提出		3. ケーススタディ作成		
	12	4) ケーススタディ作成				
	13	5) ケーススタディおよび自己評価提出				
	14 15					
評価	レポート提出	<ul style="list-style-type: none"> 中間レポートおよび、指導教員の指導を受けて研究計画書、ケーススタディを期日までに提出する。 中間レポートの提出および内容、ケーススタディ提出までの過程を自己評価、教員評価して、科目担当者が最終評点をする。100点 				教員評価 専任教員 最終評価 境敏一
		テキスト等 矢野正子 新体系 看護学全書<別巻>看護管理 看護研究 看護制度 メヂカルフレンド社				

授業科目	看護の統合と実践IV	講師名	神山奈津江	単位	1 単位	時期
				時間	30 時間	
<p>科目目標 複合的な事象において、知識を統合し、適切な判断のもとに、看護を考えることができる。</p> <p>1.患者の置かれている状況をふまえ、必要な情報を収集し、患者の状態やニーズを正確に理解できる</p> <p>2.病状(根拠)を踏まえて、適切な看護援助が判断できる</p> <p>3.安全・安楽な「質の保障」がされた看護援助技術を検討できる</p> <p>4.提供する看護技術を対象者にわかりやすく説明し、同意を得ながら進める方法がわかる</p> <p>5.優先度・タイムマネジメントの視点をもつことができる</p>						
単元	回数	授業内容		方法		
事例の理解	1	1)科目全体の説明 2)ペーパーペイシエントの説明 事例の理解 疾患の理解 看護過程 クリティカルパスの理解		科目全体の流れを理解する。 ペーパーペイシエントの状態を理解する。 レポート学習:対象の特徴、発達課題、検査・治療、看護について		
看護場面における統合された技術提供の実施	2～5	1)ペーパーペイシエントの場面の設定 ①指定された病期の援助技術の中から、各グループの割り当てを決定する。 ②場面からとロールプレイの内容を決定していく ③看護の「手順書」を作成していく(援助場面における看護技術) *対象の状況に適した援助内容、援助方法を選択し、ロールプレイで発表できるようにしていく		グループワーク ・具体的に看護場面を決定し、その場面に必要な看護は何かを考える。 ・その状況に最適な技術は何かを追求し、ロールプレイをつくりあげていく。 ・手順書はグループで1つのものを作成していく。 ・テキスト、参考図書、ビデオなどの視聴覚教材、などを活用する。 ・手順書は授業内で随時、指導を受けて修正を繰り返していく。		
技術演習	6 ～ 13	2)技術演習 ・作成した手順書をもとに、正しい看護技術の提供ができるよう練習を重ねる。 ・技術提供はその場面に本当に適しているかを繰り返し追求していくことで、統合技術を習得していく		技術演習は、ロールプレイにおける配役のパート部分に分れて実施するものではない。全員で技術を確認しあいながら意見交換をし、方法を決定していく。そうした中で、適切な看護技術と統合技術を習得していく。 手順書は修正を繰り返し、完成させていく。		
場面と技術の適切な統合	14 15	3)統合技術検討会(発表)		グループで担当した場面の援助をロールプレイで発表する。 全体討議で援助技術は適切であったかを検討をする。		
評価		レポートと提出物(10%) 10 点 手順書の内容・グループワーク参加状況・検討会の参加状況(50%)、50 点 筆記試験(40%) 40 点				
テキスト等 写真でわかる臨床看護技術①②, インターメディカ 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術1・2, 医学書院 専門分野 II 成人看護学, 医学書院 *その他、グループ学習時には根拠を明確にするために必要な教材・テキストを参考にする						